

(様式2)

学校関係者評価報告書

(新居浜西高等学校)

学校番号 (05)

評価実施日		令和6年 2月 15日 (木)	
学校関係者評価委員	氏名	所属等	備考
	伊藤 優子	学校評議員	
	柿木 仁	学校評議員	
	石井 亮	地域住民	
	伊藤 嘉秀	地域住民	
	篠原 和彦	新居浜市立北中学校長	
	塩崎 正樹	P T A 会長	
学校評議員	能瀬 伸一	地域住民	
	加藤 喜裕	地域住民	
	永井 誠司	地域住民	
	三木 由紀子	地域住民	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 令和5年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導 家庭学習時間は、学年が進むにつれ多くなっているが、1年生のときの方が基礎学力や学習習慣を身に付けるためにもっと時間が必要でないか。 家庭学習時間は長ければいいものでもないが、年々時間が減少している理由は何かあるのか。 西高は文武両道であるが最終的に進学実績である。部活動では礼儀や毎日の努力の積み重ねの大切さを学び、その先に結果がある。部活動もよく頑張っていると感じている。 先日、総合的な探究の時間で2年生から「チーム医療」についてインタビューの依頼があった。医療系を目指す西高生が来て質問も的を得た鋭いものであり頼もしく思えた。今後も引き続き取り組んでほしい。 読書活動の充実を見るのに、図書貸出数で判断するのはどうか。図書室にある本だけではないと思う。例えば、年間読書冊数合計ではどうか。</p> <p>(2) 生徒指導 交通事故が多い。交通事故はないのがよいが、モラルやルールなど道徳的なことを10代の間に指導してほしい。通学・通勤時間帯に急いでいる車をよく見かける。生徒、先生とも時間に余裕を持って安全に通学・通勤してほしい。 悩み事があって学校に行けない生徒に、小さくてもいいので目標を持って毎日を過ごしていけるよう生徒を導いてほしい。先生方も悩みを共有してほしい。</p>	<p>数値は平均であるため、学習時間が十分でない生徒や高い目標をもって取り組んでいる生徒は、まだまだできるという思いがあると考えている。家庭学習時間が確保できていない、または、習慣がない生徒に対して家庭で過ごす時間に対しての計画や教科担当、担任の指導を根気よく続けていく。 総合的な探究の時間は今年度2学期から2年生、次年度からは全学年で探究活動に取り組み成果が出ることを期待している。 読書については、把握しやすいことから貸出冊数になっていた。次年度からは読書冊数の評価に変更したい。また、図書の充実のために同窓会から「くすのき文庫」に毎年100冊ずつ寄付していただき、今年度で3年目になった。積極的に活用したい。</p> <p>全校生徒、または、徒歩通学、自転車通学、列車利用通学それぞれに対して次年度も交通安全、事故後の対応、交通マナーを守ることを指導していく。スタントマンによる交通安全教室も検討したい。 スクールライフアドバイザー、特別支援コーディネーター、担任等が生徒本人、保護者と連携を取り、情報を共有する。次年度もスクールライフアドバイザーと保護者の面談を積極的に呼び掛ける。</p>

<p>(3) 進路指導 偏差値平均が1・2年生は評価E、3年生は評価C、難関大学合格者数の割合は評価Cでどちらも目標値に達していない。学習が成果に結び付いていないのではないかと感じる。評価Cは「一応の成果があった」であるが、もう少し上を目指してほしい。 国立大学や難関大学を目指してほしい。</p>	<p>1・2年生の模試については、多様な進路希望の生徒が受験している。3年生の模試については進路希望が明確な生徒が多く、また、浪人生も受験してくるため母集団全体のレベルも上がっていると考えられる。11月より1月の模試結果は1・2年ともに偏差値は上がった。生徒たちにとって次年度に向けて励みになる。</p>
<p>(4) 業務改善 生徒の進路実現のために尽力いただいております、保護者としても感謝している。そのため、超過勤務80時間以上の先生が多い。 超過勤務80時間以上の教員が17名(27.9%)もいる。超過勤務時間を減らすべきである。減らすためにPTAとして協力できることをしていきたい。 勤務の軽減について具体的に教えてほしい。</p>	<p>今年度は自動採点システムの導入に協力いただいた。テスト採点業務で明らかに時間短縮につながっている。超過勤務の原因の一つに部活動がある。次年度は部活動改編により時間軽減になるものと期待している。 時間外に業務をした場合、例えば、その時間分を記録簿に記入することで、早く帰れるようにしている。</p>
<p>2 重点目標について 教育方針に「国際感覚にあふれ」とある。大学進学後に地方出身の学生は留学など、あまり海外に目を向けないが、都会の学生は海外に目を向けることが多い。西高の生徒には国際意識をしっかりと持たせてほしい。 マニフェストに、学力の向上、授業の改善や学習指導力の向上等があるが、常に上を目指してほしい。</p>	<p>今年度は、短期留学生、長期留学生が1名ずつ在籍し、普段の生活だけでなく部活動にも参加して、生徒との交流を深めることができた。また、台湾の修学旅行生を受け入れ授業参加、部活動体験、昼食交流と異文化理解を深めることができた。次年度も積極的に受け入れていきたい。 進学校として地域の期待に応えられるよう常に高い目標を設定したい。</p>
<p>3 説明・公表について 「学校は教材や授業の内容を工夫し、確かな学力が付く分かりやすい授業に努めている。」で生徒評価は「そう思う」以上が89.7%に対して、保護者評価は「あまりそう思わない」が23.9%であるのが気になった。保護者は授業の内容までは十分分かっていないのため、テストの点だけで判断しているのではないかと感じる。保護者と連携して授業の様子が伝わるようにすべきである。 西高の取組がメディアに多く取り上げられるように頑張してほしい。</p>	<p>PTA総会の参観授業は保護者対象の講演会と併せて実施することで、多くの保護者に参加・参観していただいた。他の学校公開日も講演会など工夫することで参観者を増やし、普段の学校や生徒の活動の様子を知る機会を作りたい。 プレスリリースを積極的にすることも考えなければならない。毎日の生活は学校HPで紹介しているが、記事の内容が偏らないように、多くの先生に記事の掲載を呼び掛けていきたい。</p>
<p>4 学校運営への提言 国際交流や国際理解教育の活発化について、新年度にふさわしい目標を立てるとよい。 家庭、地域、同窓会との連携の強化の判断にPTA総会の参加率を判断基準にするのはどうか。 総合的な探究の時間で新居浜市の今後の課題等を提示して考えることで、シビックプライドの醸成や新居浜市の活力とはならないか。 評価アンケート結果で、家庭学習時間の確保や国際感覚の養成など生徒と教職員の評価の差が大きいところが気になった。</p>	<p>次年度も短期留学生、長期留学生を中心に受け入れることで異文化理解の体制を作りたい。 家庭、地域、同窓会との連携は、総合的な探究の時間を中心に、訪問・講演回数などを考えていきたい。 新居浜市に企業を誘致する活動を他校生徒とともにすることができた。今後の新居浜市を考えるきっかけになった。 生徒理解を深め、実態を把握することで評価の乖離をなくしていきたい。</p>